

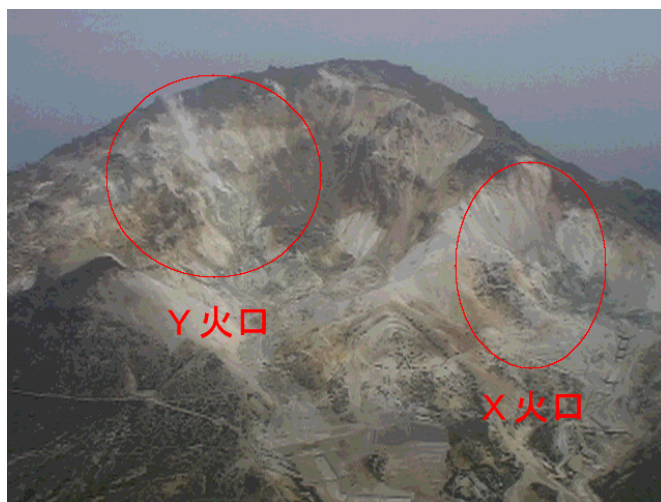
恵 山

1 概況

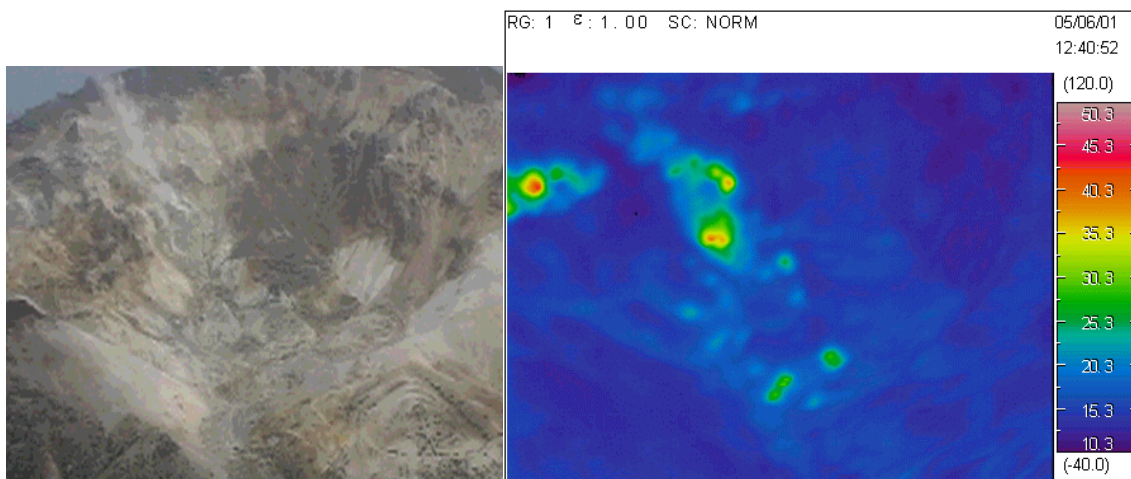
上空からの観測では、従来から知られている噴気が爆裂火口で認められましたが、地熱域の状況に変化はありませんでした。

2 上空からの観測結果

6月1日に北海道開発局の協力により実施した上空からの観測では、溶岩ドーム西側の爆裂火口内で、白色噴気（X火口：高さ5m程度、Y火口：高さ100m程度）が認められました。また、赤外熱映像装置*によるY火口の観測では2004年5月の観測と比べて地熱域の拡大や新たな地熱域などは認められませんでした。



西側上空から見た爆裂火口



西側上空から測定したY火口の表面温度分布

* 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、熱源から離れるほど測定される温度は実際の温度よりも低い値になってしまいます。また、噴煙や霧で測定対象が見えにくい場合には温度測定ができないこともあります。

参 考

約8000年前に元村噴火が生じ、大規模な火砕流が発生して山麓に台地が作られるとともに、恵山溶岩ドームが形成されました。この後、5000年前、3000年前、2500年前、600年前にも火山活動が起こり、火砕流や火砕サージが発生しました。約2500年前の活動では恵山ドームからの山体崩壊で岩屑なだれが発生しました。最近では、1846年と1847年に水蒸気爆発が起こりました。このうち1846年の噴火では、発生した泥流によって多数の死者が出ました<日本活火山総覧（第3版）（気象庁編2005）による>。

1998年（平成10年）に札幌管区气象台が実施した機動観測では、溶岩ドーム西側に位置する爆裂火口で活発な噴気活動と200前後の噴気温度が認められています。